



# 徳川美術館 名品コレクション展示室

令和6年 6月11日(火)～9月8日(日)

展示期間 A:6/11(火)～7/9(火) B:7/10(水)～8/6(火) C:8/7(水)～9/8(日)

凡例:○は重要美術品を示します。

## 【第2展示室】

### 大名の数寄 ー 茶の湯 ー

桃山時代に武将の間でも流行した「侘び茶の湯」は、江戸時代には「御数寄屋」の接待として、公式行事の一部に組み入れられた。こうして固定された茶の湯は、「侘び茶の湯」の持っていた美や新たな価値観をうち立てて行く自由な創造の精神を失って武家故実となり、格式行事と化した。大名は邸に茶室を設け、将軍の「御成」をはじめ、晴の行事に備えた。茶の湯道具もまた格式道具となった。桃山時代に武将や上層町衆や数寄者が持っていた道具の大半は、江戸時代には将軍や大名の秘蔵品となり、「名物」の道具は、時に一国一城にもあたるとされ、その所持、非所持が家の格を表すとまで評された。

No.	指定	名称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
<b>猿面茶室</b>						
1		和歌懐紙「あつまちを」	足利尊氏筆 徳川宗春(尾張家7代)所持	南北朝	14	C
2		破墨山水図	伝雪舟等楊筆	室町-桃山	16	A
3		千利休書状 川端道喜宛	伝鴻池家伝来 岡谷家寄贈	桃山	16	B
4		鉄絵算木手花生		朝鮮王朝	16	
5		天明真形釜	岡谷家寄贈	江戸	17	
6		御深井焼三島笹耳水指	個人蔵	江戸	19	
7		古薩摩茄子茶入 銘 横雲		桃山-江戸	17	
8		一尾伊織竹茶杓		江戸	17	BC
9		徳川綱誠竹茶杓		江戸	17	A
10	○	紅安南草花文茶碗		ベトナム	16	
11		御家切 古今和歌集「ちりをたに」	伝藤原俊成筆	鎌倉	12-13	A
12		因幡切 古今和歌集「みのゝくに」	伝藤原為氏筆	鎌倉	13	C
13		徳川義直書状 越前宰相宛 八月十二日		江戸	寛永20年 <1643>	B
14		黄蜀葵に蝶図	狩野探幽筆 真光院良子(尾張家18代義礼正室)所持 個人蔵	江戸	17	A
15		柘榴に梨図	徳川宗春(尾張家7代)筆	江戸	18	C
16		仙果双禽図	津田応奎筆	江戸	安永3年 <1774>	B
17		古銅杵折形花生	徳川光友(尾張家2代)・綱誠(同家3代)所持	元-明	14-15	
18		青磁鯨耳花生		南宋	13	
19		古備前釣瓶形水指		江戸	17	
20		唐物茶壺 銘 安国寺	徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所持	元-明	14-15	
21		唐物茄子茶入		南宋-元	13-14	
22		瓢形耳付茶入	野々村仁清作 個人蔵	江戸	17	
23		禾目天目		南宋	12-13	
24		井戸茶碗 銘 磯清水	岡谷家寄贈	朝鮮王朝	16	
25		刷毛目茶碗 銘 白波	岡谷家寄贈	朝鮮王朝	16	

#### 【第2展示室の見どころ ー猿面茶室ー】

第2展示室では名古屋城二之丸御殿にあった「猿面茶室」を復元している。待庵・如庵と並んで茶室として最も古く注目すべき遺構で、国宝にも指定されていたが、昭和20年(1945)、戦災焼失した。もとは清須城内に営まれていたが、慶長15年(1610)、名古屋城内に移築され、上使の接待場にあてられていたと伝える。明治に至って城内の建築物が払い下げられ、のちに末森入舟山(現・千種区見附町)に移築したが、明治13年(1880)、名古屋博物館(後の愛知県商品陳列館)にこれを寄付、さらに昭和8年(1933)、鶴舞公園内に移設された。

